

企業代表を辞して

畠 忠

今からおよそ10年程前、わが国の蛋白構造解析は欧米に著しく遅れを取っていた。そんな中、帝人の小谷野さんと中外製薬の秋元さんの「民間企業が放射光施設を恒常的に使用できるようにするにはどうしたらよいのか、その相談をしましょう。」と言う呼びかけに応じて、1993年11月22日に民間企業の22人が学習院大学で開催されていた結晶学会年会に集まり、「シンクロトン放射光蛋白解析産業利用懇談会」を結成し、数回の会合を重ねていた。そんな折り、PFで実験をする機会に恵まれての帰り、世話人の一人に選ばれた事もあって、挨拶のついでに「民間企業が使用できるビームラインが欲しい」と坂部先生にふと漏らした時、坂部先生の方でもそのようなビームラインの建設を考えられている事がわかり、坂部先生との共同作業が始まった。産官学のプロジェクトを立ち上げるには民間企業の参加が必須だし、そうかと言って、民間企業ではプロジェクトがまだ立ち上がっていないのに、参加を表明する事はできないし、と言った卵が先かニワトリが先かの堂々巡りにおかれていたが、坂部先生のご英断で、どうにかTARA坂部プロジェクト、現在の構造生物学坂部プロジェクトを誕生させる事ができた。そのころ、坂部先生は「プロジェクトを作っても、ある一定数の民間企業が参加しなかったらどうしよう」と、夜も眠れなかったと推察している。と言うのは、その当時、タンパク質X線構造解析を行っている企業はほんの数社で、大部分の民間企業ではタンパク質X線構造解析の専門家さえ居なかったからである。そんな訳で、坂部プロジェクトの最初の仕事が、回折データの取り方や処理の仕方、そして解析プログラムの使用法などについての講習会であった。「最も良いデータの取る秘訣は、前の晩グッスリ寝ておくことです。」との中川さんの言葉は今でもはっきり覚えている。

時移り、平成16年の今、坂部プロジェクト発足時の「民間企業でもタンパク質X線構造解析が出来るようになるのだろうか？」と言った心配をよそに、全ての企業がタンパク質のX線構造解析を行っている様子を見て、「ああ、やっと欧米の製薬会社に追いつけた。」と実感できるようになった。更に、本年の1月には念願の企業成果報告会も開催する事が出来た。この成果報告会は予想に反して、発表のレベルも高く、質疑討論も活発であった。そのため大幅に予定の時間を越えてしまったが、これは各企業が発表可能なぎりぎりの線まで発表してくれた賜物であろうと各企業の努力に感謝すると同時に、欧米の製薬会社を追い越す兆しをも感じさせるものであった。今や、タンパク質の構造の時代である。複合体のX線構造解析をしたからと言って、そこから直ちに新薬が設計できる訳ではない。そこには複合体の構造を見る目が必要である。

成果報告会の次は、この構造を見る目についての各企業の発表を期待している。お酒でも飲みながら聴きたいものである。

最後になりましたが、皆様のご協力により何のトラブルもなく企業代表を勤める事ができました。皆様に謹んで感謝すると同時に、新企業代表を快く引き受けて下さいました川上さんをより一層盛り立て、更なる発展を目指して下さいますようお願いいたします。構造生物学坂部プロジェクトに幸あれ。

(2004年2月12日記)

